



**azbil グループ**

**SDGs サプライチェーン活動報告書 2023 年度**

---

2024 年 9 月発行

アズビル株式会社

## はじめに

azbil グループは企業理念に基づき、事業を通じて持続可能な社会の実現と地球環境の保全に積極的な取組みを進めてきており、日本はもちろんのこと世界的な取組みである「持続可能な開発目標（SDGs）」を含めた取組みを行っています。

特に気候変動への対応と人権尊重についての対応は社会から求められている大変重要な課題との認識に基づき、脱炭素化等に向けた取組みと同時に人権デュー・ディリジェンスについて、azbil ではグループ一体となって取組みを進めています。

気候変動への対応と人権尊重についての対応を含む SDGs の取組みは、azbil グループだけでなくサプライチェーン全体で活動することでより大きな成果を上げられるものが大半であることを鑑み、調達活動においては お取引先様と長期にわたる信頼関係を築き、azbil グループ・お取引先様双方の付加価値向上をはかることを基本に、社会から高まる要望を受け止め、より積極的な社会的責任を果たすべく、サプライチェーンにおけるサステナブルな社会に向けた取組みを強化しています。

## 目次

|                                  |      |
|----------------------------------|------|
| 1.これまでの経緯と 2023 年度活動での狙い         | P.4  |
| 2.azbil グループ SDGs サプライチェーンの位置づけ  | P.6  |
| 3.azbil グループ SDGs サプライチェーンの枠組み   |      |
| 3-1. 目標達成に向けた枠組み                 | P.7  |
| 3-2. 対象領域                        | P.8  |
| 3-3. 推進体制                        | P.9  |
| 3-4. お取引先様への働きかけ                 | P.10 |
| 3-5. 評価                          | P.11 |
| 3-6. お取引先様対象範囲                   | P.12 |
| 4.2023 年度取組み実績                   |      |
| 4-1. 人権尊重の取組み：人権デュー・ディリジェンス      | P.13 |
| 4-2. 気候変動対応の取組み：CO2 排出量削減        | P.16 |
| 4-3. アズビルグループ海外販社への展開            | P.18 |
| 4-4. お取引先様個社ヒアリングと成功事例の導出・展開     | P.19 |
| 4-5. お取引様への自己評価アンケート実施           | P.21 |
| 4-6. お取引様への自己評価アンケート結果のフィードバック   | P.24 |
| 5.azbil グループ 総合評価                | P.25 |
| 6.2023 年度活動を通じての振り返りと 2024 年度の計画 | P.26 |

## 1.これまでの経緯と 2023 年度活動での狙い

2021 年度は、SDGs サプライチェーン活動の実質的な初年度ということもあり、2030 年までの活動の枠組みを規定するとともに、根幹となる考え方を示すものとして、azbil グループ購買基本方針を改定し、お取引先様が取組むべき事項を示した CSR 調達ガイドラインを作成、お取引先様にも展開しました。

2022 年度は、社会要請の強さや 2021 年度のお取引先様での自己評価アンケート結果をふまえ、お取引先様に強化していただきたいテーマを、社会／環境両面で重点取組み項目として設定しました。

重点テーマ：

社会面：人権デュー・ディリジェンス

環境面：CO2 排出量削減

CO2 排出量削減については、お取引先さままでのスコープ 1,2,3 の把握状況と、削減目標設定状況の現状把握に力点を置いて実施しました。人権デュー・ディリジェンスについては、お取引先様の従業員への人権侵害リスクが無いかどうかのリスク評価を実施し、リスクが顕在化している場合は改善要請することを目標に実施しました。

2023 年度は、上記重点テーマをより深掘りし、進展させることを主な取組み項目としお取引先様ました。CO2 排出量削減については、スコープ 1,2,3 の把握と、削減目標設定状況を 2022 年度より改善できるようにお取引先様に働きかけました。人権デュー・ディリジェンスについては、人権侵害リスクが残るお取引先様に対し改善要請を出すとともに、その改善が着実に実施されていることを確認することを目標に実施しました。この 2 つのテーマは、アズビルだけでなく、グループ各社にも展開、実施しました。

また、上記のような網羅的な取組みに加え、お取引先様個社ごとの訪問・ヒアリングを約 60 社に実施することでお取引先様の SDGs への考え方や取組み実態を把握し、それらを反映することでお取引先様への働きかけによって有効な効果が生み出せるような取組みも進めて参りました。

このヒアリングにより、先進的な取組を実施しているお取引先様の事例を見つけ、同様の課題をもつ他のお取引先様に展開することでサプライチェーン全体でより大きな効果を引き出すことも目標にしました。

## 年度別取組みの遷移

### 【2021 年度 実施事項】お取引先様への啓発・動機づけ

- azbil グループでの取組み基盤づくり
  - ・ azbil グループ購買次基本方針改定
  - ・ CSR 調達ガイドラインの作成
  - ・ グループ各社で推進体制整備
- お取引先様へのアクション
  - [azbil]
    - ・ CSR 調達ガイドライン説明会の実施
    - ・ お取引先様自己評価アンケート実施と回答結果の分析
  - [azbil グループ各社]
    - ・ お取引先様自己評価アンケート実施と回答結果の分析



### 【2022 年度 実施事項】お取引先様へのアクション 具現化

- azbil グループでの取組み基盤づくり
  - ・ 社会／環境面の重点取組みテーマ設定  
(人権デュー・ディリジェンス、CO2 排出量削減)
- お取引先様へのアクション
  - [azbil]
    - ・ 人権デュー・ディリジェンス  
人権課題のうち、第 1 優先順位項目について取組み実施
    - ・ CO2 排出量削減  
お取引先様排出量と削減取組みレベルの現状把握
    - ・ 2021 年度アンケートのフィードバック
    - ・ 2022 年度お取引先様自己評価アンケート
  - [azbil グループ各社]
    - ・ CSR 調達ガイドライン説明会の実施
    - ・ お取引先様自己評価アンケート



### 【2023 年度 実施事項】お取引先様へのアクション 深耕・拡大

- azbil グループでの取組み基盤づくり
  - ・ azbil にて、グループ海外販社への展開シナリオ作り
  - ・ グループ各社で、人権デュー・ディリジェンス、CO2 排出量削減  
推進体制の整備
- お取引先様へのアクション
  - [azbil]
    - ・ お取引先様個社ヒアリングと成功事例の導出
    - ・ 人権デュー・ディリジェンス  
人権課題のうち、第 2 優先順位人権項目についても改善要請
    - ・ CO2 排出量削減
  - [azbil グループ各社]
    - ・ 人権デュー・ディリジェンス ※ 1
    - ・ CO2 排出量削減 ※ 1
    - ・ お取引先様排出量と削減取組みレベルの現状把握
    - ・ グループ海外販社での CSR 水準向上施策と  
サプライチェーン活動開始

※ 1 2022 年度 azbil での実施内容を水平展開

※ 2 以下は 20233 年度以降 azbil、 azbil グループ各社で毎年実施

- ・ お取引先様自己評価アンケート
- ・ 前年アンケートのフィードバック

## 2. azbilグループ SDGs サプライチェーンの位置づけ

### azbilグループ SDGs 目標 2020 年 3 月制定

azbilグループは、SDGs 達成に貢献するため、4つのSDGs 基本目標とターゲットを定めました。事業、企業活動全体で取組みを進めます。SDGs サプライチェーンの活動は、4つの活動のうちの1つに該当します。

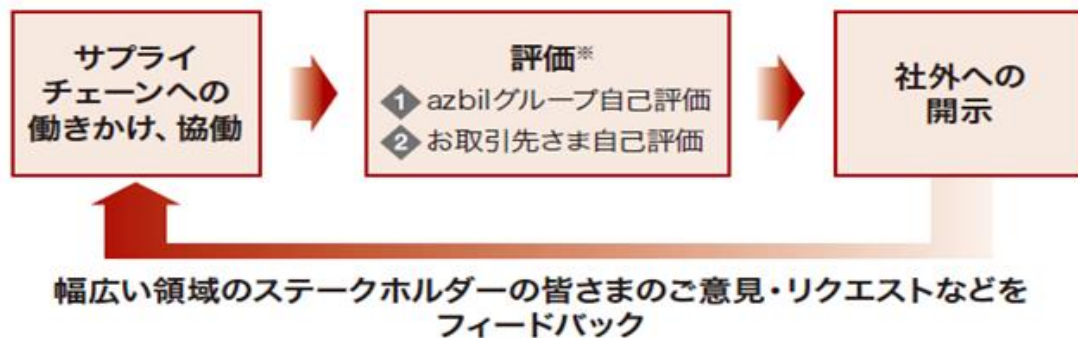


### 3. azbilグループ SDGs サプライチェーンの枠組み

#### 3-1. 目標達成に向けた枠組み

##### ■ サプライチェーンのCSR活動を評価するazbilグループのPDCAサイクル

お取引先さまとともに、SDGsを共通目的として連携し、  
サプライチェーンにおけるCSRの価値共有を実現。



※：

##### ①azbil グループ自己評価

『サプライチェーンへの働きかけ』について、4つの視点（①方針・戦略 ②体制・仕組み ③取組み施策 ④有効性）で、azbilグループでの独自評価基準に基づき、自己評価を実施します。

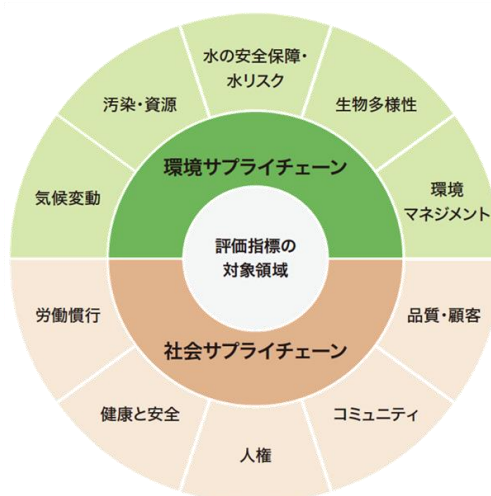
##### ②お取引先様自己評価

グローバル・コンパクトをベースにしたアンケートにより、お取引先様自身の活動を自己評価していただきます。

### 3-2. 対象領域

SDGs サプライチェーン活動で取組むべき領域を設定し、この領域を対象として、azbil グループの取組み体制整備やお取引先様への働きかけ、azbil グループおよびお取引先様の取組み評価、等を行います。

- 客観性を確保し、社外からも評価・確認しやすいように、対象領域を設定。下表の中分類 10 項目を「対象領域」と呼びます。
- 大中分類に紐付ける形で、小分類に azbil グループの取組み施策を配置しました。



SDGs サプライチェーン活動で取組むべき領域

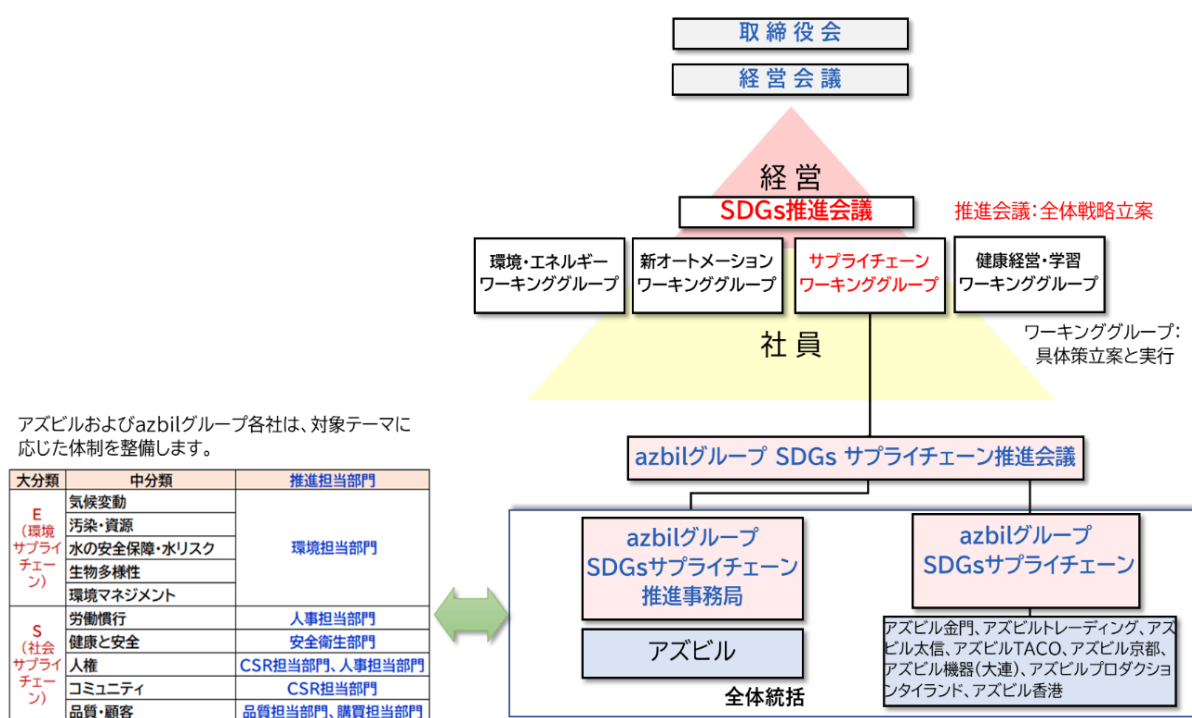
| 大分類                      | 中分類                            | 小分類                                                  |
|--------------------------|--------------------------------|------------------------------------------------------|
| <b>E</b><br>(環境サプライチェーン) | 気候変動 (GHG、エネルギー)               | ・ CO2/GHG排出を含む気候変動課題への取組み                            |
|                          | 汚染・資源 (大気、排水、有害廃棄物、廃棄物削減、原材料等) | ・ グリーン調達                                             |
|                          |                                | ・ 製品含有化学物質管理                                         |
|                          |                                | ・ 資源利用の削減<br>・ 産業廃棄物の削減<br>・ 資源再利用<br>・ 再生エネルギー利用の促進 |
|                          | 水の安全保障・水リスク                    | ・ 水使用の削減、排水削減                                        |
|                          | 生物多様性                          | ・ 生物多様性保全                                            |
| <b>S</b><br>(社会サプライチェーン) | 環境マネジメント                       | ・ ISO14001に準拠した環境管理活動                                |
|                          | 労働慣行                           | ・ 児童労働、強制労働の廃止、過重労働時間の削減                             |
|                          |                                | ・ 差別の禁止、機会均等                                         |
|                          |                                | ・ ダイバーシティ推進                                          |
|                          | 健康と安全                          | ・ 健康と安全管理<br>・ 働き方改革、ワークライフバランス                      |
|                          | 人権                             | ・ 基本的人権の尊重 (反社会的勢力の排除、紛争鉱物対応を含む)                     |
|                          | コミュニティ (地域社会)                  | ・ 地域振興、社会貢献につながる活動                                   |
|                          | 品質・顧客                          | ・ 公正な商取引の遵守 (法令遵守を含む)                                |
|                          |                                | ・ 品質マネジメント                                           |



### 3-3. 推進体制

azbil グループ SDGs サプライチェーン活動は、azbil グループ生産機能／購買機能担当役員を責任者とし、azbil がグループ全体を統括する形態で運営します。

参画する azbil グループ各社は、対象領域においてお取引先様への働きかけ施策の展開ができる体制を、各社の SDGs 責任者を中心に、関連機能部門と連携して、適切な形で整備します。



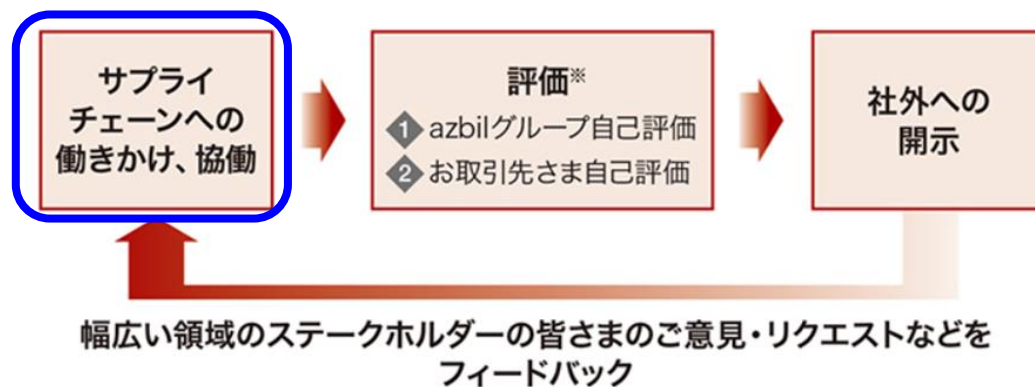
#### SDGs 推進会議：

社長、関連経営参加の下、SDGs に関する計画の策定、実行、評価について各ワーキンググループから報告が行われ、2030 年度の目標達成に向けて PDCA サイクルが回されると共に、経営が全体戦略立案とかじ取りを行う会議体。

#### azbil グループ SDGs サプライチェーン推進会議：

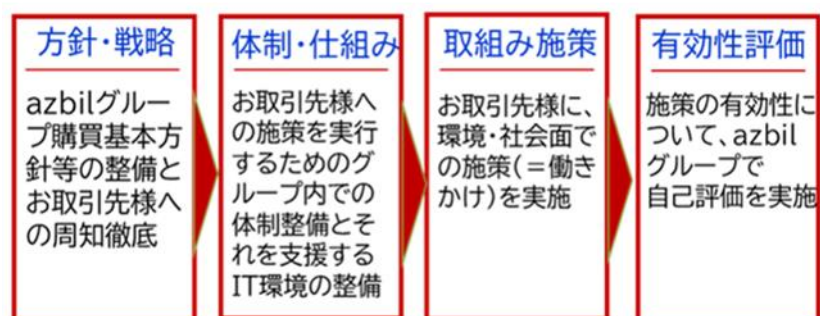
サプライチェーンワーキンググループの担当経営の下で、アズビルおよび azbil グループの SDGs 責任者が出席し、お取引先様とのコミュニケーションのほか、SDGs サプライチェーンに関する取組み施策の計画／実績を相互に共有し、PDCA を回す会議体。

### 3-4. お取引先様への働きかけ



以下の 4 つのアクションにそった取組みを、お取引先様に展開することで、サプライチェーン全体を環境／社会面で確実に改善していきます。

#### 『 サプライチェーンへの働きかけ』



※有効性評価の妥当性を検証する意味も含め、お取引先様にも自己評価を実施依頼。

#### 【方針・戦略】

azbil グループとしてのサプライチェーン管理方針(目標、計画を含む)を、azbil グループ購買基本方針として外部開示するとともに、お取引先様にも周知徹底を促します。

#### 【体制・仕組み】

azbil グループ各社で施策を推進する体制や、グループ各社間やお取引先様との情報共有の仕組みを整備します。

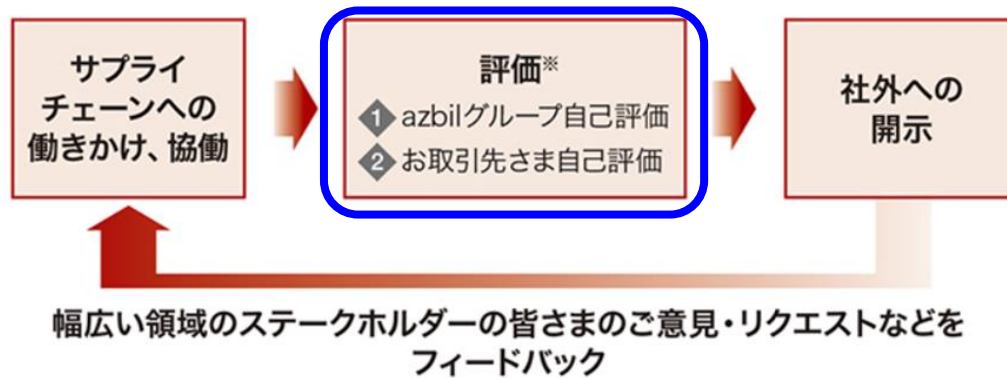
#### 【取組み施策】

azbil グループ各社で、上記方針に基づき、体制・仕組みを活用して自社お取引様に対し働きかけ(=取組み施策)を実施します。

#### 【有効性評価】

azbil グループ各社が、自社の取組みを評価します。

### 3-5. 評価



SDGs サプライチェーン活動 取組みの評価として、 azbil グループは『サプライチェーンへの働きかけ』について、 4 つの視点 で自己評価を実施します。さらにお取引先様自己評価 (\*)を加えた計 5 項目で総合評価を行います。  
⇒ azbil グループの取組みと、お取引先様の強み弱みが見える化し、翌年度施策立案へとつなげます。

\* : お取引先様にも、対象領域 22 小分類ごとに理解度や社内推進体制、取組み状況等の確認をするアンケートを実施します。azbil グループの取組みが有効に機能すれば、経年ではお取引先様での自己評価も向上してくる との仮説に基づき、azbil グループの取組み有効性の検証の意味も含め、お取引先様自己評価結果を評価対象に加えています。

|                       |                                   | azbil グループとしてのサプライチェーンへの働きかけの評価 |        |     |                  | 取引先実態把握       |
|-----------------------|-----------------------------------|---------------------------------|--------|-----|------------------|---------------|
| 大分類                   | 中分類                               | azbilグループ自己評価                   |        |     |                  | お取引先様<br>自己評価 |
|                       |                                   | 方針・戦略<br>(目標、計画含む)              | 体制・仕組み | 取組み | 有効性<br>(パフォーマンス) |               |
| E<br>(環境サプライ<br>チェーン) | 気候変動 (GHG、エネルギー)                  |                                 |        |     |                  |               |
|                       | 汚染・資源<br>(大気、排水、有害廃棄物、廃棄物削減、原材料等) |                                 |        |     |                  |               |
|                       | 水の安全保障・水リスク                       |                                 |        |     |                  |               |
| 以下、省略                 |                                   |                                 |        |     |                  |               |

- ・ 青四角一つずつ、10 点満点で評価します。
- ・ 2030 年までの評価がぶれないように、評価基準を設定しています。

### 3-6. お取引先様対象範囲

azbil グループ全体ではお取引先様は 4000 社を超えていますので、スクリーニングを実施したうえで、SDGs 対象のお取引先様を選定しています。

具体的には、取引額（azbil グループでの購買高）の大きいお取引先様が、SDGs 施策が奏功した場合の azbil グループへのインパクト、またはリスクが顕在化した場合の azbil グループへの負のインパクトが大きいとの仮説に基づき、取引額の大きいお取引先様から順に採用し、azbil グループ全体の取引額 80% をカバーするようにお取引先様を選定しています。これを重要お取引先様とみなし、SDGs 対象お取引先様として管理しています。

取引額は毎年増減があること、azbil グループの SDGs 取組に非協力的なお取引先様もあることから、1 年に 1 度必要に応じて対象お取引先様は見直ししています。2023 年度時点での対象お取引先様社数は以下のとおりです。

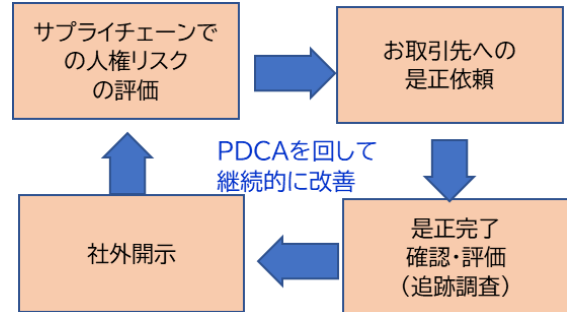
| アズビルグループ          | 全取引先社数 | SDGs対象取引先<br>(重要取引先)社数 |
|-------------------|--------|------------------------|
| アズビル              | 2575   | 319                    |
| アズビル金門            | 267    | 80                     |
| アズビルトレーディング       | 817    | 30                     |
| アズビルTACO          | 300    | 52                     |
| アズビル太信            | 265    | 28                     |
| アズビル京都            | 4      | 3                      |
| アズビル機器(大連)        | 119    | 24                     |
| アズビルプロダクション タイランド | 36     | 11                     |
| アズビル香港            | 50     | 9                      |
| 合計                | 4433   | 556                    |

## 4. 2023 年度取組実績

### 4-1. 人権尊重の取組み：人権デュー・ディリジェンス

#### “人権デュー・ディリジェンス”とは

サプライチェーンにおいて  
お取引先様従業員の人権侵害に関する  
リスク評価を行い、発生している場合  
には速やかに是正に努める活動。  
(右図の PDCA を回す活動)



#### 人権デュー・ディリジェンスで対象とする「人権課題」の決定

アズビルグループ人権基本方針に則ったうえで、以下の観点で、多面的に検討しました。

- ①国連方針「ビジネスと人権に関する指導原則」
- ②法令遵守の必要性
- ③アズビル事業における影響評価
- ④先進他社事例で採用されているもの（下表参照）

| 人権課題 項目              | ← 電子機器関係 → |            | 製造業        |            |          |               |           |          |
|----------------------|------------|------------|------------|------------|----------|---------------|-----------|----------|
|                      | 電子機器<br>A社 | 電子機器<br>B社 | 生活用品<br>C社 | アパレル<br>D社 | 食品<br>E社 | 食品<br>F社      | 自動車<br>G社 | 運輸<br>H社 |
| アズビルでの当初選定           |            |            |            |            |          |               |           |          |
| 児童労働の廃止              | ○          | ○          | ○          | ○          | ○        | ○             | ○         | ○        |
| 強制労働の廃止              | ○          | ○          | ○          | ○          | ○        | ○             | ○         | ○        |
| 過重労働時間の削減            |            |            |            | ○          | ○        | ○             | ○         | ○        |
| 差別の禁止、機会均等           | ○          | ○          | ○          | ○          | ○        | ○             | ○         | ○        |
| ダイバーシティ推進            | ○          |            |            |            |          | ○             | ○         |          |
| 健康と安全管理              | ○          | ○          | ○          | ○          | ○        | ○             |           | ○        |
| 働き方改革、ワークライフバランス     |            |            |            |            |          | ○             |           |          |
| 反社会的勢力の排除、<br>紛争鉱物対応 | ○          |            |            | ○          |          |               | ○         |          |
| その他                  |            |            |            |            |          |               |           |          |
| 賃金(適正、未払い防止)         |            |            | ○          |            | ○        | ○             | ○         | ○        |
| 結社の自由と団体交渉権          |            |            | ○          | ○          | ○        | ○<br>(+労働基本権) | ○         | ○        |
| プライバシーに関する権利         | ○          | ○          |            |            | ○        | ○<br>個人情報     |           |          |
| 情報発信に関する差別的表現        |            |            |            | ○          | ○        |               |           |          |
| コミュニティへの負の影響         |            |            | ○※1        |            | ○        |               |           |          |
| 移住労働・外国人労働者          |            |            |            | ○          |          |               | ○         | ○        |
| 人身売買                 |            |            |            |            |          |               |           | ○        |
| 相談通報窓口               | ○救済へのアクセス  |            |            | ○          |          |               |           |          |

人権デュー・ディリジェンスでの人権課題として以下の8つを選定しました。

#### 【人権課題】

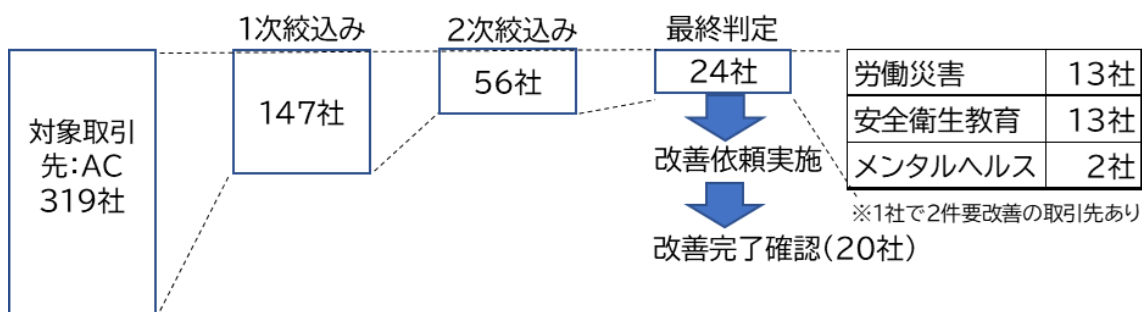
- ・児童労働の廃止
- ・強制労働の廃止
- ・過重労働時間の削減
- ・賃金(適正、未払い防止)
- ・移住労働・外国人労働者
- ・差別の禁止、機会均等
- ・健康と安全管理
- ・結社の自由と団体交渉権

上記は、お取引先様の従業員を対象にしているがそのチェック対象に、女性、子供、出稼ぎ労働者も包含しています。

## 【人権デュー・ディリジェンス 実施プロセス】

以下のように、お取引先様を2段階のアンケートでスクリーニングしたうえで、潜在リスクの残るお取引先様には訪問し、多面的なヒアリングにより最終判定を実施しました。その結果、お取引先様24社には改善依頼を実施し、うち20社は改善の実施を完了していることを確認済みです。

未完了の4社は、2024年度に継続してフォローする予定です。



上記と同様のプロセスを azbil グループ主要各社でも自社の取引先に対し実施中です。

| azbilグループ        | 人権デューデリジェンス<br>対象取引先 社数 |
|------------------|-------------------------|
| アズビル金門           | 74                      |
| アズビルトレーディング      | 31                      |
| アズビル太信           | 24                      |
| アズビルTACO         | 50                      |
| アズビル京都           | 3                       |
| アズビルプロダクションタイランド | 11                      |
| 合計               | 193                     |

## 【主要な是正依頼内容】

法令違反の是正はもちろんですが、お取引先様従業員の人権尊重、企業の存続性確保の観点からアドバイスしています。

- ・安全衛生推進者（管理者）の選任義務について法令の周知と選任依頼
- ・雇入れ時および職務変更時の安全衛生教育の実施と記録保管
- ・緊急時の労災対応マニュアルの作成依頼（アズビルの作成例を紹介）
- ・労災の類似災害防止対策の依頼と保護具着用の適正な管理を促す教育

## 動画紹介

- ・ストレスチェックの適正な実施 等

### 【成果】

今回の取組みにより、お取引先様での人権侵害リスク低減が大きく進みました。また、人権侵害リスク低減のための手続き、法令や社会動向等の知見やどのようなケースに人権侵害リスクが多いかといった人権に関する付帯的な情報についてはかなり蓄積が進みました。

24年度は2次より上流のお取引先様にも人権デュー・ディリジェンスを実施していく予定ですが、今回得られた知見を活用することで洩れなくかつ効率的に人権デュー・ディリジェンスの取組みを進めたいと考えています。

## 4-2. 気候変動対応への取組み：CO2 排出量削減

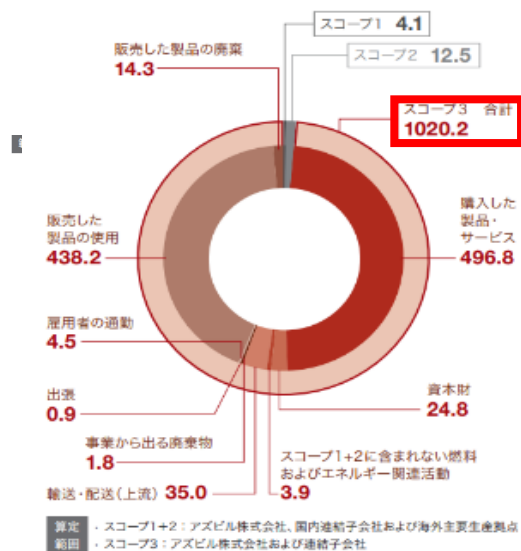
azbil グループでは、サプライチェーン全体での GHG 排出量削減 2030 年 20% 削減（2017 年度比）の実現に向け、お取引先様での CO2 排出量削減を進めています。

環境省の排出係数と購買高をベースにした算出では、azbil グループではスコープ 3、特にお取引先様からの製品・サービスの購入にまつわる CO2 排出量の比率が高い状況となっています（図 1）。

また、お取引先様の業種別に見ると図 2 にあるように、会社数ではサービス・役務系が多いことがわかり、また CO2 排出量でみるとほぼ 3 等分となっていることから 1 社あたりの CO2 排出量は商社と製造業が多いことがわかります。

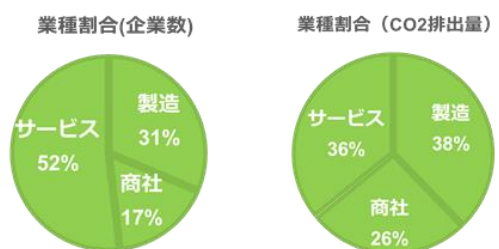
【図 1】

CO<sub>2</sub>排出量（スコープ1+2+3）の状況（2022年度）  
（千トンCO<sub>2</sub>）



【図 2】

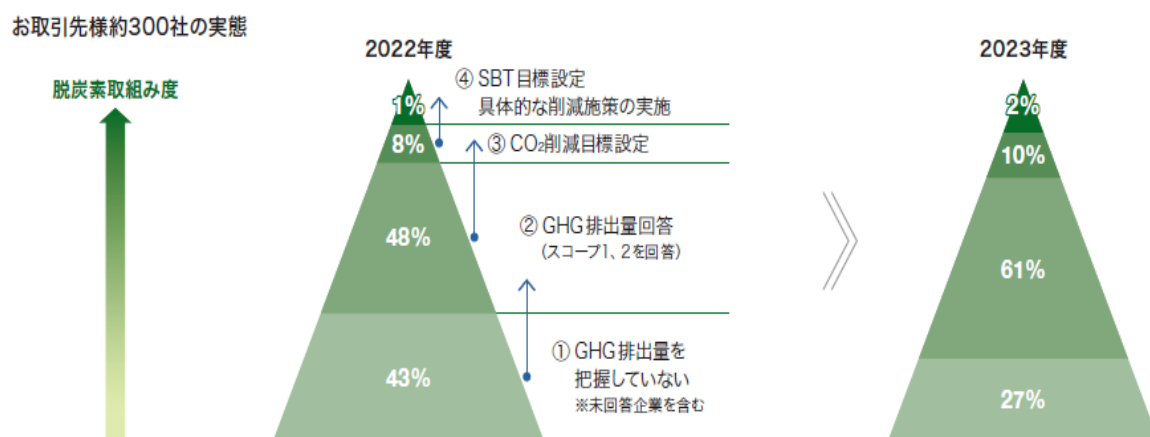
主要お取引先様約 300 社の業種別割合と CO<sub>2</sub> 排出量





主要お取引先様 320 社で CO2 排出量削減取組みを調査しました。アンケート回収率は 86.3% (276/320 社) でした。  
2022 年度、2023 年度の状況は以下のとおりです。

【図3】主要お取引先様の CO2 排出削減取組み状況



この状況を踏まえて、2023 年度はお取引先様に以下のような働きかけを実施しました。

- ① CO2 排出量削減にはサプライチェーン全体での取組みが必須要件であることを示すべく、脱炭素への啓発資料を改定し、全てのお取引先様に配布しました
  - ② お取引先様でのスコープ 3 算定(\*)を容易にするため、お取引先での主要購買品目で算出する方式に変更するなど現状の調査票を改良しました。
  - ③ 現状排出量の大きいお取引先様を中心に 62 社を個社訪問し、ヒアリングと CO2 排出量削減に向けた協議を実施しました。
- \*: カテゴリー1に限定したスコープ3の簡易算定

その結果、次のような成果が得られ、2023 年度の状況は【図 3】右側のよう

- ・自社の CO2 排出量を把握しているお取引先様（上図：②③④）が増加しました（57→73%）。

エネルギー量の把握による CO2 排出量算定の啓発は進んできていますが、その一方で削減目標設定までは難しく捉えられていることも改めて認識しました。今後は、成功事例を導き出すべく候補となるお取引先様を選定し、CO2 排出量の削減目標設定の支援、および管理ツールの提供などで、削減活動につなげていきたいと考えています。

### 4-3. アズビルグループ海外販社への展開

「誰一人取り残さない」SDGs の考えから、azbil グループでは、23 年度から海外販社にもサプライチェーン活動を展開しております。対象とする海外販社は 15 社に及び、企業規模やこれまでの活動や実力に相当ばらつきがあることから、実力レベルから大きく 4 つのグループに分け、グループごとに狙うべき状態を定義し、その実現に向けて SDGs サプライチェーン活動を進めています。

実態としてはグループ 1, 2 は社内の CSR 水準向上を狙うべき企業群、グループ 3, 4 が取引先への働きかけを本格的に実施する企業群となっています。

#### 狙う姿

|            | グループ 1                                                                      | グループ 2                                                                                                                                                  | グループ 3                                                                      | グループ 4                                                                     |
|------------|-----------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------|
| グループ定義     | 購買業務が最低限の法令遵守、運用体制を満たして実施されることを目指すべきレベル                                     | 購買業務が内部牽制が効いており、不正が起きにくい状態が担保されることを目指すべきレベル                                                                                                             | SDGs活動として、サプライチェーンの状況を把握し、“守り”の取組みを実施完了することを目指すべきレベル                        | SDGs活動として、“攻め”の活動を実施し、社会・地域から高い評価の獲得を目指すべきレベル                              |
| ・取組完了の条件内容 | ①発注依頼元部門とは異なる購買業務を担当する組織がある。<br>②購買業務についての管理規程がある<br>③購買業務担当者に対して教育がなされている。 | ①第3者機関(グループ監査部、現法診断)から問題ない評価を得ている<br>②購買関連項目について海外監査(グループ監査部実施)で過去に受けた指摘が是正されている。                                                                       | 【SDGsサプライチェーン “守り”の取組み】<br>①aGの購買基本方針の周知徹底<br>②人権デューデリジェンス<br>③公正な商取引の遵守 等々 | 【SDGsサプライチェーン “攻め”の取組み】<br>①CO2排出量削減<br>②ダイバーシティ推進<br>③働き方改革、ワークライフバランス 等々 |
| グループ       | アズビルヨーロッパ<br>アズビルマレーシア                                                      | アズビルコントロールソリューション<br>アズビルシンガポール<br>アズビルノースアメリカ<br>上海アズビル制御機器<br>アズビルベルカ・インドネシア<br>アズビルインド<br>アズビルフィリピン<br>アズビルメキシコ<br>アズビルサウジアラビア<br>アズビルベトナム<br>アズビル台湾 | アズビル韓国<br>アズビルタイランド                                                         | 該当なし                                                                       |

グループごとに、狙う状態に到達するためのロードマップを描き、施策を決めました。優先順位としては、低位のグループを上位に引上げることでリスク低減を図ることから着手することが有効と考え、グループ 1 の 2 社、グループ 2 の海外販社に対し優先的に施策を実施してきました。

対象となった海外販社に対しては、サプライチェーン活動の説明会を実施することで、まず海外販社の理解度を上げることに取組みました。

また、グループ 1、2 は法令遵守・内部統制面で改善の余地がある企業なので、J-SOX 的な観点での業務フロー等の整備を中心に実施しました。フロー整備後は、帳票サンプリング等で業務フローが有効に機能していることも確認しました。その結果、グループ 1 の 2 社、グループ 2 の 3 社については、各々 1 つ上のグループ 2、3 へ格上げできる状態となりました。

24 年度はグループ 2 の 4 社、グループ 3 の 2 社について施策を実施していく予定です。

#### 4-4. お取引先様個社ヒアリングと成功事例の導出・展開

22年度までは、お取引先様でのまだSDGsへの認知度、取組みともに高くないことから、主要なお取引先様全体を対象とする取組み施策を実施してまいりました。しかし、お取引先様個社ごとに経営方針や狙う方向、リソース等が全て異なることから、網羅的な取組み施策に加え、お取引先様個社ごとの意向やニーズ、取組状況を掴むことが、アズビル施策の有効性を上げることに必要であると判断しました。

そこで、アンケートでは把握しきれない、お取引先様のSDGsに対するお考えと詳細な取組み実態を把握することを目的として、お取引先様を訪問して対面でのヒアリングと意見交換を実施しました。対象は、主要なお取引先様の中から、CO2排出量の多いお取引先様30社と社会面での課題が懸念されるお取引先様32社の計62社を選定しました。この訪問・ヒアリングにより、次のような効果が得られました。

- ・SDGs推進を目的に、訪問まで実施してくる顧客はアズビルのみというお取引先様が大半でした。アズビルの意欲を感じていただくとともに、人権デュー・ディリジェンス、CO2排出量削減以外のテーマについても、お取引先様への啓発・動機付けができました。また、アズビル/お取引先様双方の認識のすり合わせができました。その結果、訪問させていただいたお取引先様は、訪問していないお取引先様より、お取引先様自己評価アンケートにおいて得点が大きく上がり、訪問が有効であることを確認しました。
- ・ヒアリングにより、お取引先様は同業・同規模の他社事例を知りたいが適切な手段が無いことも判明しました。そこで、今回のヒアリングで得られた各社の取組み事例を一覧にまとめ、Webサイトに公開するとともに、訪問したお取引先様へのフィードバックも実施しました。

**お取引先様 SDGs取組み事例**

◎:40%以上  
○:20%以上40%未満  
△:20%未満

| 分野 | テーマ                           | 小分類                     | 事例                                      | 取組み比率 |
|----|-------------------------------|-------------------------|-----------------------------------------|-------|
| 環境 | CO2排出量削減※                     | 社用車                     | 社用車、フォークリフト等をEV、HVに変更。社用車のエンジンをサイズダウン   | ◎     |
|    |                               |                         | 社用車相乗り                                  | △     |
|    |                               |                         | 社用車は無し、移動は公共交通機関のみとしている                 | △     |
|    |                               | 標準プログラム実施               | ECOプログラム(アズビル施策)の継続実施                   | ○     |
|    |                               |                         | ECOアクション21(環境庁施策)または自治体施策の実施            | △     |
|    |                               | 空調機                     | 空調機、コンプレッサー等を省エネ型に変更し、節電                | ◎     |
|    |                               | 照明器具                    | 照明器具をLED化                               | ◎     |
|    |                               |                         | 照明器具・OA機器をまめに消灯、または場所により人感センサーを設置し、自動消灯 | ◎     |
|    |                               | 断熱                      | 照明器具、機械の電源落とし忘れ防止を社員会議で徹底、改善            | △     |
|    |                               |                         | 窓や屋外の室外機を遮光する                           | ○     |
|    | 汚染・資源(大気、排水、有害廃棄物、廃棄物削減、原材料等) | 断熱                      | 事務所窓を複層ガラスへ切り替え                         | △     |
|    |                               |                         | 太陽光パネル導入                                | ○     |
|    |                               | 再生可能エネルギー               | 生産設備更新時に節電効果の高いものに更新                    | △     |
|    |                               |                         | 環境取組みについてコンサルタントに相談、依頼している              | △     |
|    |                               | その他                     | 備品は(アズクル等の)グリーン商品の購入                    | ○     |
|    |                               |                         | 設計時にグリーン調達を意識して製品設計をしている                | △     |
|    |                               | ・グリーン調達                 | RoHS、REACHの適合確認                         | ○     |
|    |                               |                         | 見積の時点で対応できるメーカーを選定                      | △     |
|    |                               | ・製品含有化学物質管理             | アズビル指定のさび止めの塗料選択                        | ○     |
|    |                               |                         | 紙をシュレッダで細かくして緩衝材に再利用。ダンボールを再利用。         | ○     |
|    |                               | ・資源利用の削減、<br>・産業廃棄物の削減  | 不良基盤、使わなくなった板金、ダンボール等をリサイクル             | ○     |
|    |                               |                         | クーブルや廃棄、ドラム、材料の端材を回収、再利用                | ○     |
|    |                               | ・資源再利用<br>・再生エネルギー利用の促進 | 製品配送の際に通い箱などを活用                         | △     |
|    |                               |                         | 再生紙、裏紙の利用                               | ○     |
|    |                               | 環境マネジメント                | ISO14001取得                              | ○     |

# お取引先様 SDGs取組み事例

◎:40%以上  
○:20%以上40%未満  
△:20%未満

| 分野 | テーマ          | 小分類                              | 事例                                         | 取組み比率 |
|----|--------------|----------------------------------|--------------------------------------------|-------|
| 社会 | ダイバーシティ      | ダイバーシティ                          | 外国人の雇用                                     | ◎     |
|    |              |                                  | 外国人技能実習生を採用、その後も雇用化                        | △     |
|    |              |                                  | 東南アジア(ベトナム等)にリモート拠点をもち、現地の人を採用             | △     |
|    |              |                                  | 女性の活躍促進(女性管理職増加 等)                         | ◎     |
|    |              |                                  | 高齢者(65歳以上)雇用延長                             | ◎     |
|    |              |                                  | 障害者の雇用                                     | ○     |
|    |              |                                  | 男性社員も育休取得、時短勤務可能                           | ◎     |
|    | 健康と安全        | ・健康と安全管理                         | 社内に、AED、血圧計、休憩用ベッドの設置を検討                   | △     |
|    |              |                                  | 社内外にメンタルヘルスの相談窓口を設置                        | ○     |
|    |              |                                  | アズビル安全衛生協議会のアズビルの事故の事例や、ヒヤリハットの話を社内で展開     | ◎     |
|    |              | ・働き方改革、ワークライフバランス                | 出産2年で保育園入れない人は育休を延長                        | △     |
|    |              |                                  | 小学校6年生まで時短勤務ができる制度の設定                      | △     |
|    |              |                                  | 学校行事の多い月は、休日を増やす等の配慮                       | △     |
|    |              |                                  | ノー残業デーの導入                                  | △     |
|    |              |                                  | 土曜日も出勤になる可能性が高い現場業務なので1日6.5時間×6日/週 勤務としている | △     |
|    |              |                                  | メンタル不調対策として、夜間作業の前後に半日有休取得を推奨する制度を導入       | △     |
|    |              |                                  | 在宅勤務、テレワーク環境の整備、時差通勤の導入                    | ◎     |
|    |              |                                  | 積極的に事務処理効率化を図る。(例:IT導入、黒板機能のデジタル化等)        | △     |
|    | コミュニティ(地域社会) | ・地域振興、社会貢献につながる活動                | 地域の行事、祭り、神社、学校、公共団体等への寄付                   | ◎     |
|    |              |                                  | 地域の清掃活動、町内会活動に参加                           | ○     |
|    | 品質・顧客        | ・公正な商取引の遵守(法令遵守を含む)<br>・品質マネジメント | ESG私算債の購入                                  | △     |
|    |              |                                  | 新規取引の会社は、取引先調査票を提出してもらい、問題がないか確認           | △     |
|    |              |                                  | ISO9001取得、またはそれに準じた活動                      | ◎     |
| 全般 |              | CSR調達ガイドラインの熟読、月次定例会の議題にSDGs絡み   | △                                          |       |
|    |              | SDGs絡み込みの宣言や情報公開                 | ○                                          |       |

※ 対象は、CO2排出量削減の具体的な取組とし、CO2現状把握や目標設定、環境報告書作成等は含まない。

- ・今回のヒアリングの中で、多くのお取引先様は人材採用難に悩んでいることも判明しました。まず本業の事業面で人材不足により支障が出始めており、こういった状況下ではSDGs 推進も厳しいといった声も多く聞かれました。一方で、外国人労働者を多様な形態で採用し、かつ長期的な人材活用につなげている成功事例をもっているお取引先様もありました。そこで、外国人労働者の採用・活用により、ダイバーシティの促進と人材確保による事業面での貢献の両面を狙い、この事例を基に他のお取引先様に水平展開することを企画し、24年度にも継続推進中です。

## 4-5. お取引様への自己評価アンケート実施

アズビルグループでは以下の目的で、お取引先様にグローバル・コンパクトの考え方をベースにした自己評価アンケートの実施を毎年お願いしております。

- ・お取引先様に継続的な動機づけと振返りの機会をつくることで、お取引先様での取組みを促進する
- ・アズビル施策の有効性を検証するとともに、お取引先様の進化を時系列で検証する

21年度から3年目の実施となり、お取引先様の特徴や傾向、経年での変化が把握できるようになってまいりました。

2023年度のアンケート集計結果は以下のようになっています。

お取引先様自己評価アンケートの回収率は、88.7%（493/556社）となっています。

### ■ azbil グループ 国内6社 お取引先様自己評価アンケート実施社数

数字：お取引先様 社数

| azbilグループ   | アンケート依頼 | アンケート回収 | お取引先様 業種・業態 |    |       |                |
|-------------|---------|---------|-------------|----|-------|----------------|
|             |         |         | 製造          | 商社 | 工事・役務 | エンジニアリング・ソフト開発 |
| アズビル        | 319     | 283     | 92          | 43 | 136   | 12             |
| アズビル金門      | 80      | 71      | 39          | 17 | 5     | 2              |
| アズビルトレーディング | 30      | 27      | 20          | 5  | 2     | 0              |
| アズビル太信      | 28      | 20      | 8           | 12 | 0     | 0              |
| アズビルTACO    | 52      | 46      | 35          | 10 | 1     | 0              |
| アズビル京都      | 3       | 3       | 0           | 3  | 0     | 0              |
| 合計          | 512     | 450     | 194         | 90 | 144   | 14             |

### ■ azbil グループ 海外3社 お取引先様自己評価アンケート実施社数

数字：お取引先様 社数

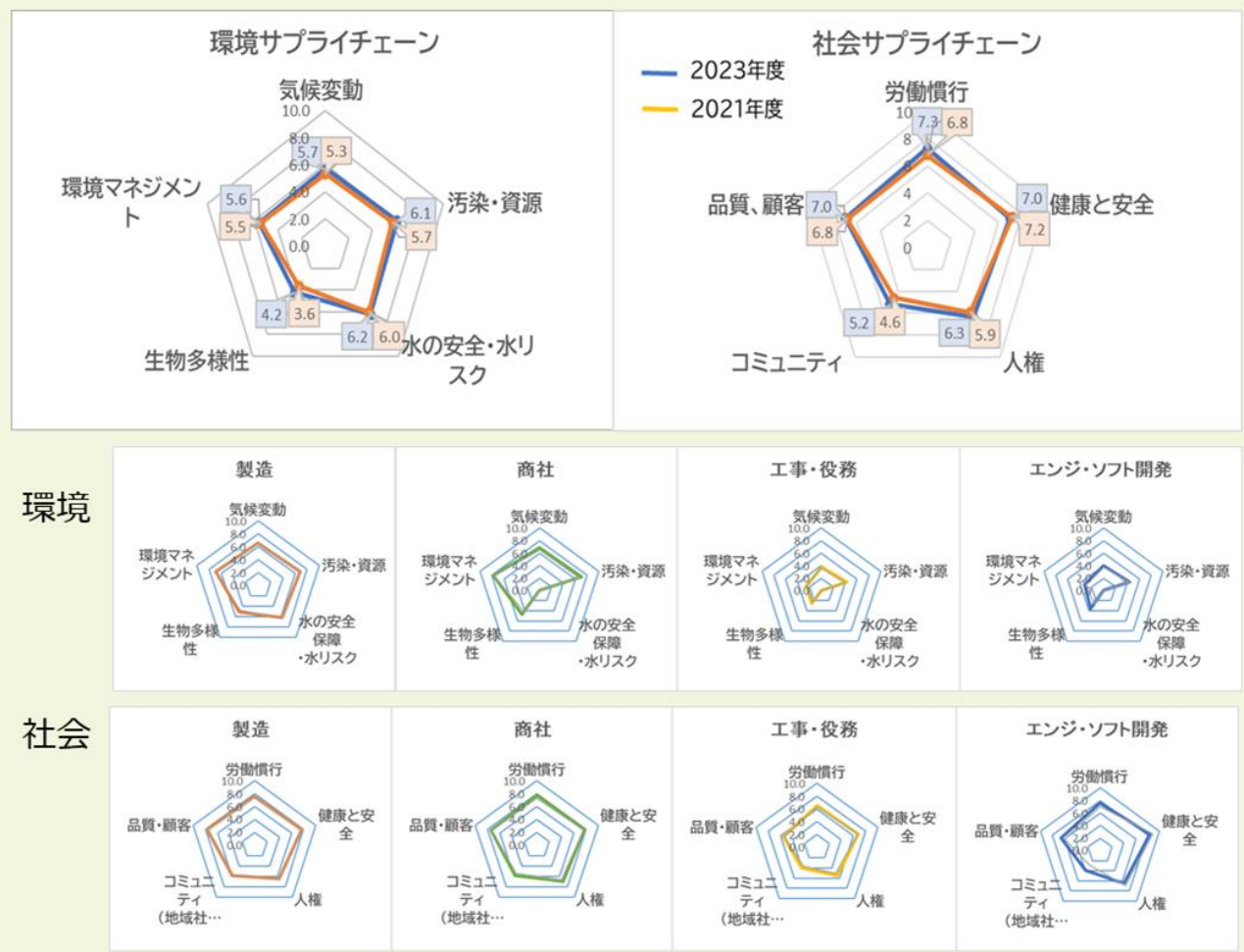
| azbilグループ        | アンケート依頼 | アンケート回収 | お取引先様 業種・業態 |    |       |                |
|------------------|---------|---------|-------------|----|-------|----------------|
|                  |         |         | 製造          | 商社 | 工事・役務 | エンジニアリング・ソフト開発 |
| アズビル機器(大連)       | 24      | 24      | 17          | 7  | 0     | 0              |
| アズビルプロダクションタイランド | 11      | 11      | 8           | 3  | 0     | 0              |
| アズビル香港           | 9       | 8       | 5           | 3  | 0     | 0              |
| 合計               | 44      | 43      | 30          | 13 | 0     | 0              |



## ■ azbilグループ国内・海外 お取引先様自己評価集計結果 10 対象領域（中分類）別

- 全体的に評価点はアンケート実施初年度の2021年度より着実に増加しています。下記では表現しきれませんが、特に国内お取引先様の伸びが著しく、改善が進んでいます。
- 業種・業態別は2021年度と同じ傾向を示しております。  
製造業は他の業種・業態より評価点が高いが、工事・役務は評価点が低くなっています。ただ、社会面では、業種・業態による差異が縮小してきています。

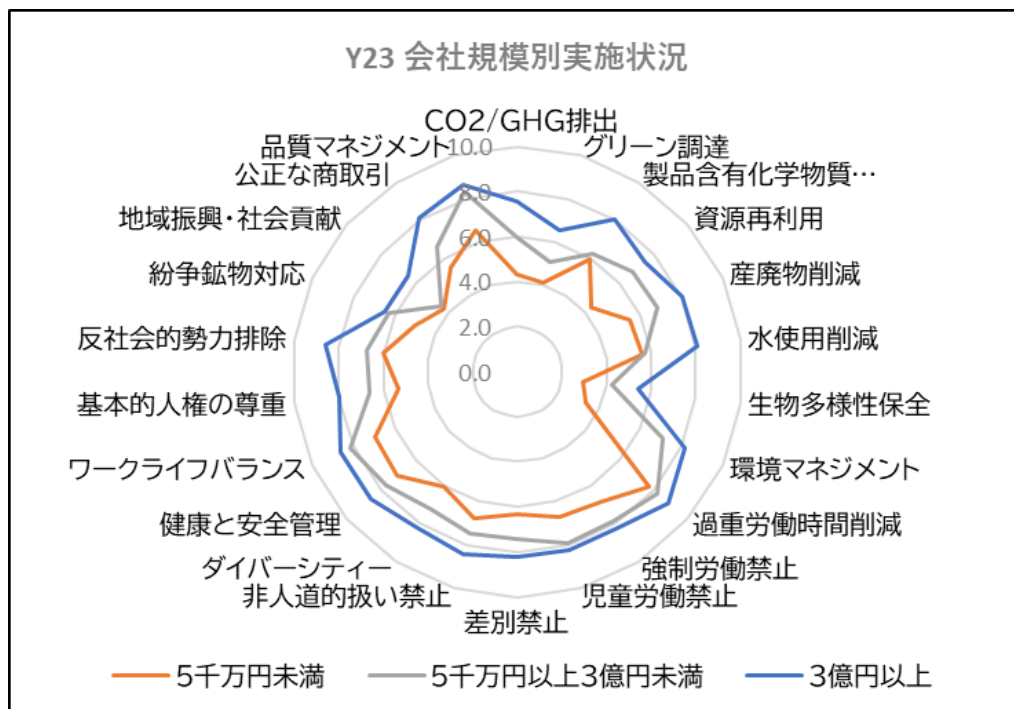
### azbilグループ国内9社での集計結果



※環境サプライチェーン「水の安全保障・水リスク」において製造以外は非該当のため、表示上0点となります。

## ■ 自己評価アンケートにおける会社規模（資本金）別の比較

- 資本金による会社規模別に取り組む状況を比較すると、会社規模（資本金）が大きいほど取り組みが進んでいる傾向を示しています。大規模企業の方が企業体力に優れていることと社会要請に敏感に反応していることが原因と考えられます。
- しかし、下記グラフには表示しておりませんが 2021 年度からの進捗を考慮しますと、小規模の会社の方が 2021 年度より取り組みが進んでいることが顕著に伺えます。これまでの azbil グループ CSR 調達ガイドライン説明会や各種働きかけ、フィードバックによって、小規模企業でも動機付けが進み、取り組みの底上げが行われていると捉えています。



## 4-6. お取引様への自己評価アンケート結果のフィードバック

2022 年度のお取引先様自己評価アンケート回収結果を活用して、お取引先様個社ごとの自主的な改善をお願いしました。

具体的には、2022 度の自己評価アンケート結果を使って、小分類 22 項目ごとに azbil のお取引先様の平均点との差を明示することで、自社の強み・弱みを認識していただき、特に弱みについて改善の取組みをお願いしました。

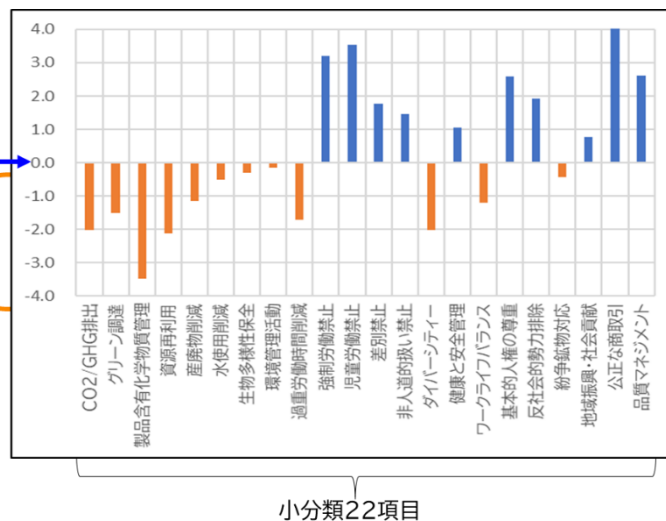
2023 年度のお取引先様自己評価アンケートの結果から、改善をお願いした小分類テーマは平均点が微増ながら向上しており、お取引先様へのフィードバックが有効であることを確認しました。

フィードバックレポートのイメージ：

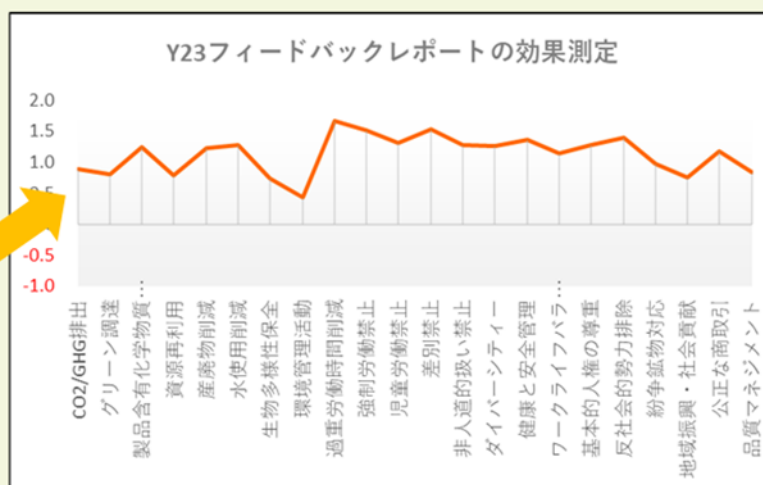
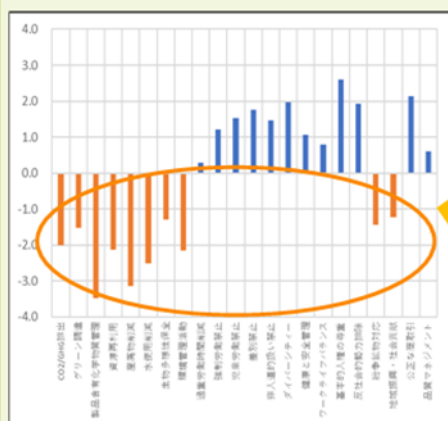
アズビルのお取引先様の平均点を0点とした。

オレンジ色部分は、お取引先様個社の得点がazbilグループのお取引先様の平均点を下回っている部分。

⇒この部分の小分類テーマの改善をお取引先様個社ごとにお願しました。



2022 年度が平均点を下回っているお取引先様は、2023 年度での自己評価アンケートは改善が見られた。(右のグラフで、プラス側に出ている)



数値は、2023 年度自己評価アンケート点数 - 2022 年度自己評価アンケート点数



## 5. azbil グループ 総合評価

azbil グループ自己評価基準に基づき、対象テーマ毎に評価を実施しました。具体的には、環境／社会各 5 の計 10 の対象領域について、azbil グループとしてのサプライチェーンへの働きかけ（①方針・戦略 ②体制・仕組み ③取組み施策 ④有効性評価）と、⑤お取引先様自己評価結果 の 5 つの評価項目での単純平均点を総合評価点とし、10 点満点で評価します。

2023 年度は、各種施策が奏功し、環境／社会サプライチェーン各項目ともに、初年度の 2021 年度に比べ、総じて 2 点程度上昇しています。人権デュー・ディリジェンス、CO2 排出量削減を重視した取組みを実施したので、この 2 つに関わる分野は点数の伸びがやや大きくなっています。

### 環境サプライチェーン



### 社会サプライチェーン



## 6. 2023 年度 活動を通じての振り返りと 2024 年度の計画

### ■ 2023 年度 活動を通じて評価できる点

- ・2023 年度は、azbil SDGs サプライチェーンの枠組みに則り、期首に設定した計画をほぼ実施することが出来ました。
- ・2023 年度は 22 年度からの継続テーマである人権デュー・ディリジェンスと CO2 排出量削減をもう一段深耕したので、その点での成果がありました。  
azbil のお取引先様については、顕在化している人権侵害リスクを洗い出し、改善依頼までを完了しました。お取引先様での対応もほぼ完了し、人権侵害リスクの低減にめどをつけることが出来ました。  
azbil での実績に基づく知見をもとに、azbil グループでの人権デュー・ディリジェンス活動に展開できたことも成果と捉えています。  
CO2 排出量削減については、お取引先様への調査票を改善することにより、お取引先様のスコア 1, 2 の可視化を大きく改善することができました。
- ・「誰一人取り残さない」の考え方のもと、これまでサプライチェーン活動を実施していなかったグループ海外販社にも活動を展開すべく、計画立案までを完了できました。この計画に基づき、2024 年度にグループ海外販社でもサプライチェーン活動を実践する計画です。
- ・2023 年度はお取引先様個社ごとの訪問・ヒアリングを 60 社強実施できました。個社ごとのニーズ・実態を捉えること、アズビルの意図を理解してもらうことに加え、協力的な関係性を作る意味での副次的な効果もありました。

### ■ 2024 年度の計画

2024 年度も、環境／社会面でお取引先様に働きかけ、協業することで、サプライチェーンの持続可能性を確保する活動を継続・強化していきます。更に、同業・

同規模の他のお取引先様での事例を知りたがっているお取引先様が非常に多いことを踏まえ、azbil グループの働きかけで得られた成功事例やお取引先様訪問等で得られた成功事例を他のお取引先様に展開する活動を強化していきます。この活動を通じて、お取引先様と azbil グループ双方の付加価値向上に努め、長期的な信頼関係の構築につなげていきたいと考えています。

個別テーマとしては、これまでの環境／社会面に加え、ガバナンス（\*）面でのお取引先様への働きかけも実施していく予定です。人権デュー・ディリジェンスにおいては、直接のお取引先様での評価、改善のめどがついていることから、更に上流のお取引先様にも対象範囲を拡大して実施していく計画としています。環境面では、CO2 排出量削減以外のテーマについても今後強化していく予定です。

※反社会的勢力との関係遮断、腐敗防止、事業継続計画 等

***azbil***